



6



2



4



3



5

### 写真の説明

**写真\_1** 合唱団に参加した原小学校児童。大人にも負けない声量で全体合唱を支えた。**写真\_2・6・8** 8回もの全体練習を重ねた「はつかいち平和の祭典合唱団」。唱歌メドレー「ふるさとの四季」、「赤とんぼ」を高らかに歌い上げた。**写真\_3** ホワイエには、広島・長崎の原爆直後の惨状や被害の実態を当時の写真で紹介したポスターを展示。**写真\_4** 祭典に届けられた12万を超える折り鶴は、宮島小5年浦部誠さんから真野市長へ、そして小左古登志江実行委員長へとリレーされた。写真は小左古委員長。折り鶴は28日に広島平和公園内の「原爆の子の像」に献納された。**写真\_5** 合唱指導・指揮を務めた市内在住の音楽家、松本憲治さん。平成18年に県下で文化芸術に功績のあった人に与えられる「広島文化賞」を受賞されている。**写真\_7** 廿日市高校書道部の皆さんが書いた、はつかいちへいわのうた「桜と空に折り鶴を」の歌詞。**写真\_9・10** 井上ひさし著「少年口伝隊一九四五」を木吉佐和美さんのピアノ演奏とともに朗読した「音訳ボランティアグループ つばさ」の皆さん。13回目の参加。



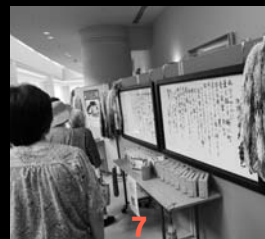
10



9



8



7

## そのときホールは、歴史の語り部となる—

2014はつかいち平和の祭典 ～つなぐ 命・平和～

平和の尊さを、戦争の悲惨さを伝え続けること——。それは、誰かが行わなければならないこと。その思いが一つになったとき、その言葉は、きっと誰の心にも届くはずです。7月26日に行われた、2014はつかいち平和の祭典。その声は、さくらびあのホールを揺らした—。

訳ボランティアグループ「つばさ」による朗読のあと、さくらびあ市民オペラ管弦楽団の演奏による全体合唱が行われた。原小学校3・6年生30人も参加し、8歳～88歳まで、公募が集まった過去最高の140人を超える合唱団は、唱歌メドレー「ふるさとの四季」や「赤とんぼ」を力強く熱唱。ホールに集まった人たちが気持ちを一にし、反戦への明確な意思を発信した。

太平洋戦争終了から69年が経った現在。戦争を経験した人たちが年々少なくなる中、忘れてはならないことを歌に乗せ、力の限り訴えた。

実行委員会では、コンサート活動以外にも、誰でもできる平和貢献活動として、「書き損じはがきの回収運動」をユネスコの「世界寺子屋運動」の一環として7年前から行っている。1枚の書き損じはがきが45円の募金となり、戦争や内乱で学習機会を奪われた子どもたちの学習の場を提供するために使われる。

また、ホワイエでは廿日市高校書道部の皆さんが書いた、「はつかいちへいわのうた」「桜と空に折り鶴を」の歌詞や、原爆のポスターを掲示。作品を通して平和の大切さを訴えた。

### 届け、平和への願い



「はつかいち平和の祭典」は、およそ30年以上前に市民センターで行われていた「平和教育講座」を前身に、その後名称を「平和のつどい」、「音楽の夕べ」、「平和コンサート」と変えながら現在に引き継がれている。平成13年からは実行委員会が組織され、その全ての企画・運営を市民が行ってきた。

「憎しみからは何も生まれないことを世界初の被爆地『ヒロシマ』から発信しよう」という当初からの強い思いは今も変わらない。

7月26日には、祭典のメインイベント「オーケストラと歌おうふるさとの四季」をさくらびあで開催。各市民センターなどに寄せられた折り鶴の受け渡し式から始まり、音